

- 1 鎌倉幕府において、各地方に配置され、土地の管理や徴税を任された役職を何という？
 ① 国司 ② 郡司 ③ 地頭 ④ 守護 ☐ ☐
- 2 13世紀後半、フビライ・ハンが日本へ向けて2度にわたり大規模な遠征軍を九州北部へ送った一連の戦いを何という？
 ① 応仁の乱 ② 元寇 ③ 保元の乱 ④ 承久の乱 ☐ ☐
- 3 鎌倉幕府の御家人が、軍役として警備を担当した、朝廷のある都はどこ？
 ① 平泉 ② 奈良 ③ 大宰府 ④ 京都 ☐ ☐
- 4 モンゴル帝国（元）の遠征を受けた際、当時の日本を統治していた幕府を何という？
 ① 鎌倉幕府 ② 平安京 ③ 室町幕府 ④ 平氏政権 ☐ ☐
- 5 鎌倉幕府が、元寇後の困窮した御家人たちを救済するために出した法令を何という？
 ① 喧嘩両成敗法 ② 分国法 ③ 徳政令 ④ 貫高制 ☐ ☐
- 6 一遍が諸国を巡りながら、念仏を唱えて踊ることで教えを広めた活動を何という？
 ① 踊念仏 ② 座禅 ③ 唱題 ④ 念仏 ☐ ☐
- 7 鎌倉時代の将軍と御家人の間の「御恩」と「奉公」によって成り立つ結びつきを何という？
 ① 執権政治 ② 主従関係 ③ 公地公民 ④ 中央集権 ☐ ☐
- 8 13世紀に国号を元と定め、二度にわたり日本へ侵攻を企てたモンゴル帝国の皇帝は誰？
 ① チンギス・ハン ② モンケ ③ オゴディ ④ フビライ ☐ ☐
- 9 運慶が快慶らと協力して制作した、奈良の東大寺南大門に安置されている有名な彫刻作品を何という？
 ① 観音菩薩像 ② 阿弥陀如来像 ③ 金剛力士像 ④ 釈迦如来像 ☐ ☐
- 10 鎌倉時代の武士が重んじた、規律を厳しく守る生活態度のことを何という？
 ① 華美 ② 放縦 ③ 優雅 ④ 厳格 ☐ ☐
- 11 『徒然草』のように、筆者が日々の出来事や感じたことを自由に書き留める文学形式を何という？
 ① 随筆 ② 歌集 ③ 説話集 ④ 軍記物 ☐ ☐
- 12 鎌倉幕府が、朝廷の動きを監視するために京都に設置した機関を何という？
 ① 京都守護 ② 六波羅探題 ③ 奥州探題 ④ 鎮西探題 ☐ ☐
- 13 1221年に幕府打倒を計画し、承久の乱を起こした上皇は誰？
 ① 後白河上皇 ② 崇徳上皇 ③ 後鳥羽上皇 ④ 白河上皇 ☐ ☐
- 14 浄土真宗で重要視された、自分の修行力ではなく、阿弥陀仏の力によって救われるという考え方を何という？
 ① 自力本願 ② 他力本願 ③ 悪人正機 ④ 即身成仏 ☐ ☐
- 15 マルコ・ポーロが記した『東方見聞録』の別名を何という？
 ① 大唐西域記 ② 元史 ③ 三国遺事 ④ 世界の記述 ☐ ☐
- 16 鴨長明が活躍し、古典文学が発展した時期を何という？
 ① 鎌倉時代 ② 奈良時代 ③ 平安時代 ④ 室町時代 ☐ ☐



① 隠す

赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

② 言う

解説を読んで、用語を口に出す

③ 印を付ける

言えたら□にチェック

問	解説	▼ここで折る	答え	言えた
1	地頭 は、御家人の中から任命され、土地の管理や年貢の徴収を行いました。		3 地頭	☐
2	1274年の文永の役と、1281年の弘安の役の2度、元軍が九州北部に襲来しました。		2 元寇	☐
3	御家人の重要な軍役の一つに、 京都 の警備を担う「 京都 大番役」があります。		4 京都	☐
4	鎌倉幕府 は「御恩と奉公」という主従関係を基盤に、地頭や守護を配置して日本全国の武士を統制しました。		1 鎌倉幕府	☐
5	幕府は、御家人が借金を返済しなくてもよいことや、質入れした土地をただで取り戻せるようにする 徳政令 を1297年に出しました。		3 徳政令	☐
6	一遍が始めた「 踊念仏 」は、太鼓を打ち鳴らし、念仏を唱えながら踊ることで、深い宗教体験を得ようとするものです。		1 踊念仏	☐
7	主従関係 とは、将軍が土地を保障する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」が対になったものです。		2 主従関係	☐
8	第5代皇帝 フビライ ・ハーンは国号を「元」と改め、大都（現在の北京）を拠点に東アジアの覇権を握ろうとしました。		4 フビライ	☐
9	東大寺南大門に配置された 金剛力士像 は、運慶と快慶らの工房が分担して短期間で完成させました。		3 金剛力士像	☐
10	鎌倉時代の武士は、富や権力を誇示するよりも、質素で 厳格 な生活を送り、主君に対する絶対的な忠誠を誓うことを美徳としました。		4 厳格	☐
11	随筆 （エッセイ）は、決まった形式に縛られず、個人の内面や世の中に対する洞察を記すものです。		1 随筆	☐
12	六波羅探題 は、京都の六波羅に設置された鎌倉幕府の重要機関です。		2 六波羅探題	☐
13	後鳥羽上皇 は、自らを支持する武士たちを集めて幕府軍への反撃を試みました。		3 後鳥羽上皇	☐
14	他力本願 は、自分の力で行う修行（自力）に頼るのではなく、すべてを阿弥陀仏の力（他力）に任せて救いを求める考え方です。		2 他力本願	☐
15	『 世界の記述 』（あるいは『驚異の書』とも呼ばれる）は、モンゴル帝国（元）のフビライ＝ハーンのもとでの体験、中国の高度な文明、さらには日本などの周辺国の様子が描かれています。		4 世界の記述	☐
16	この時代には、戦乱の不安や厳しい生活環境を背景に、無常観を湛えた文学が発展しました。		1 鎌倉時代	☐

言えなかった用語ノート